

### 1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2890900554		
法人名	株式会社ハートコーポレーション		
事業所名	グループホーム西宮		
所在地	西宮市薬師町5-50		
自己評価作成日	令和2年12月15日	評価結果市町村受理日	令和3年6月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先
----------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ兵庫福祉調査センター		
所在地	尼崎市南武庫之荘2丁目27-19		
訪問調査日	令和3年3月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では普段からの散歩や買い物、春と秋の年2回にご家族様と共にマイクロバスをチャーターして実施している行楽行事など、施設外に出ることにより得ることのできる、体力維持や良い刺激、地域との関わりなどを重視してケアを実施しております。現在は新型コロナウイルスの影響で、なかなか外出も自由にできない情勢ですが、カラオケやゲームなどをされたりして生活を楽しまれています。その中でも折り紙やお花紙などを使って飾りを作って、ホームの各所に飾っております。どの作品も素晴らしい入居者の皆様が無言に作られた作品です。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

東西に走る阪急神戸線の東方、阪急電車今津線に平行して上下に中津濱線が伸び西宮市薬師町がある。グループホーム西宮は、平成15年2月1日の開設で17年を迎えた。木造2階建ての施設である。現在の入所利用者は18名、平均年齢84.2歳。平均介護度2.6の男4名、女14名が入居利用者である。職員は17名(うち常勤・専任が4名、非常勤が13名)とパートが多く交替も頻繁とみられる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念は「私たちは入居者に明るく、楽しく、家庭的な環境を提供します。私たちは入居者に安心、快適、尊厳のある生活を提供します。私たちは入居者に応じた自立を支援します」となっています。常に寄り添い、入居者の皆様にとっての自立した生活をご家族様も交えて考え実行に移しています。	入居利用者に寄り添うことを念頭に、お1人ひとりの自立した生活を支えるため利用者に応じた支援をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の散歩や買い物、地域の集い、夏祭り等での地域住民の方とのコミュニケーションを重視してケア及び入居者様の生活を構築しております。現在は新型コロナの影響で自粛しております。	散歩や買い物等を通じての近隣との交流も重ねて来ていたが、コロナによりストップしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居相談を通じて地域住民の方に適切なサービス提供が出来るよう、自施設だけでなく、他事業所とも連携して支援を実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルスの影響により、対面式の会議は中止しておりますが、書面にて情報共有を行い、委員から頂戴した意見を運営に反映している。	対面での会議は出来ないが、書面による情報共有方式で、委員の意見を把握し運営に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険事業所として、事業所運営が法令を遵守したものとなるよう西宮市と連携を図り、確認を行いながら運営を実施している。	平素からであるが、西宮市と随時、連絡を取りつつ事業運営を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等に関する基本指針は「身体拘束の禁止」となります。身体拘束による悪影響について定期的な研修を実施するとともに、2カ月毎に法人が開催する「法令遵守担当者会議」でも身体拘束に関する未実施報告を継続して行っております。	身体拘束について、特に留意し研修を重ね、悪影響の事前防止に努めている。	

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々スタッフと声掛けを行い、コミュニケーションを計っています。定期的な面談も行い、問題点も共有するようにしています。また職員の不満解消を補填する取り組みとして法人が実施する「ホットライン」を周知して活用しております。	職員スタッフとのコミュニケーションに努めている。利用者家族からのアンケートも大切な資料としている。職員との生の声掛けが、法人のホットラインと共に虐待防止につながっている。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部講師を招き管理者を対象とした「後見人制度研修」を実施し、職員へも伝達している。職員の理解への確認は年2回実施する人事考課にて相互確認を行っている。	利用者の権利擁護を重視しており、研修を重ねている。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様のご都合に配慮して、日程などは設定しています。重要事項説明書を読みながら、十分な説明を行い、ご納得の上、契約していただいています。	契約においては、時間を十分とって細部に亘る説明を尽くしている。契約内容についても確認を重ねている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様のご意見は日々の会話より聞き取り、ご家族様からは、ご家族様アンケートを実施するほか、来訪時や、定期連絡の際の意見を運営に反映しております。	利用者処遇の充実のため、家族意見等の把握に努め、運営に反映している。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月実施している職員会議にて、職員からの運営に関する意見を幅広く聞き取りサービスの向上に繋がるよう努めている。	職員とは平素から意思疎通を図りサービス向上に反映するよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課および定期面談を実施し個人目標を達成できるよう努めている。また、年2回勤務に関する貢献度や就業状況を勘案しての評価を実施し介護職員職員殊遇改善加算金の分配を実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人が設定する研修項目を、毎年3月に管理者により翌年度の研修計画に落とし込み、研修を実施している。また、入職時研修マニュアル(管理者・介護職員)も設定されている。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内には介護事業所は13事業所あり、2か月毎に「法令遵守担当者会議」を実施している。その中で研修や交流など通じて情報交換し、自施設のサービス向上につなげている。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所検討時には今、ご本人様やご家族様が不安に感じている事や困っている事を細かくアセスメントし、入居後の生活がイメージできるように相談支援を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安要素が多いサービス提供開始時期には、グループホームでの生活がいかに安全で安心できるサービスであるかを理解していただけるよう、ご本人様やご家族様の要望を細かくアセスメントを行い、遠慮なく何でも聞いて頂けるような関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様やご家族様が何に一番困って、入居を検討されているかという動機をはじめとした、困りごとや要望等を聞き取り、適切なサービスに繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	これまでの生活歴や趣味、価値観からご本人様やご家族様が望む生活を一緒に考え、入居者様、ご家族様、他の入居者様、職員全員が共に暮らす関係作りを重視している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	認知症ケアにおけるご家族様の必要性を職員は把握しており、入居者様の生活やケアにおいて常にご家族様と共に歩んで行けるよう密に連絡や来訪時の時間を重視している。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで築いてこられた家族や友人等の繋がりを絶やさぬように、面会や外出、近況等の報告を積極的に行うように努めている。	コロナが来て外部の人との往来は制約を余儀なくされたが、繋がりを絶やさぬ地道な努力を重ねている。	

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に 努めている	ご本人様の要望や他の入居者様との相性、価値観など を反映し仲間づくりを支援するように職員が介入しな がらケアに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を 大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフ ォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後にも相談支援できる関係作りに努めて おり、退居者からの紹介などがある。また、退居後の 関係性の重要性を代表者からも会議内で勉強する機 会がある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に 努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の要望を把握し実現できるように一緒に考 え、実行できるように支援に努めている。	利用者ご本人の思いや意向を活かすべく些細なこ とも大事にして運営している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、 これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様、ご家族様からの聞き取り以外にも、必要 があれば、各サービス期間や前任者からの聞き取り も行うように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力 等の現状の把握に努めている	職員間での情報の共有を行い、日中・夜間の様子 の把握に努めている。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方につ いて、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それ ぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計 画を作成している	月に1度は職員で話し合う場を設け、課題の発掘や 必要なサービスについて検討を行っている。	月一度、職員との話し合いの場において、利用者 がよりよく暮らすための課題とそれに必要なサー ビスについて検討を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個 別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践 や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノート、介護記録を友好的に活用できる ように努めている。また、新たな課題には迅速に対 応するべく計画の改定に努めている。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員間の意見を広く収集、検討し、社会的な資源等の情報収集に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の情報やボランティア等の情報収集を積極的に行う。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族様の意向によりかかりつけの病院の継続、協力医療機関を受けて頂く場合は、本人様、家族様の同意を得て内科の往診を受けてます。	かかりつけ医療機関による治療継続には家族の協力を得る。協力医(すこやかクリニック)の医療は、家族・本人の同意を得て行う。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は一週間に2回の訪問があり、健康相談、置き薬の管理の相談をされています。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中には可能な限り面会に行き、本人の状態の把握に努めています。また家族様からも病院からの情報を頂けるように依頼しています。面会時には看護師や医療連携室の担当者とも話す機会を持ち早期退院に繋がるように努めています。	入院中は、面会に出向き状態把握に努め、家族へも病院情報を得てもらう。その上で医療連携室、医師看護師との関係で情報を得て早期退院に繋げている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	グループホームとしてできる事、出来ない事を正確に伝えます。家族様には様子の報告を定期的に行い、可能な限りのご希望に添えるように対応しています。	入所契約時及び重度化、終末期に向けた方針の策定において、事業所として出来こととできないことを正確に伝え、家族への情報報告を定期的に行う中で、可能な限りの希望に沿うこととしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、応急処置、救急要請、急変時の対応については細かなマニュアルがあるので、定期的に見直しと情報の共有を徹底しています。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施し、緊急時の避難経路の確認や整備を行っています。	令和2年10月16日と3月に訓練を予定している。今回は夜間想定防火避難訓練で、避難時持ち出しの備品用具確認。徒歩避難の瓦木中学への行程確認及び車椅子利用者3名の搬送訓練をした。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の守秘義務やプライバシー尊重を職員が理解し徹底できるように努める。また、声かけ等の接遇は人格を尊重するように対応を行う。また、年間研修計画でも個人情報保護、プライバシー配慮に関する研修を実施している。	利用者一人ひとりの個人情報守秘義務とプライバシー尊重を職員が理解し推進できるように情報保護等の研修を実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴を基本とし、自由な表現表出が出来るように声かけの工夫を行う。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	生活のペース配分やその日の過ごし方については、ご本人様の状況や意思を尊重し、優先するように対応行う。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の希望に沿った身だしなみとなるよう、個々のニーズを把握し、衣類の買い物や訪問の理美容を利用していただけるように支援行う。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえや盛りつけなどを一緒にを行い、食事の楽しみを共有できるように努めている。また、定期的にホットケーキやたこ焼き等の食事連クリエーションも取り入れている。	食材は関係業者から週3回納入を受ける。近隣スーパーで購入することもある。食の楽しみのため食連クリエーションも取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	外部栄養士が管理する献立により食事提供を行っている。また、季節や個々の体調に留意しながら水分補給が出来るよう努めている。必要に応じて看護師や医師への相談もおこなっている。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は口腔ケアを行い、肺炎等のリスクを軽減するように対応している。必要に応じて歯科医への相談や指導をいただいている。		
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗による精神的悪影響を職員が把握し、排泄の状況を記録、管理し、個人に合わせたタイミングや声かけを行うように努めている。	排せつパターンの把握をし、トイレ利用が中心となるように働きかけをしている。声掛けをするが、ままたらぬ人もあり、失敗もある。布おしめの使用はなく、リハパンを使用する。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や食物繊維等の便通に必要な食べ物を摂っていただき散歩等を通じて運動していただく事により排便管理することでスムーズな排便を実現している。改善しない便秘には必要に応じて医療と連携して対応している。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を基本として、個々の希望や体力、体調をみながら入浴を楽しんでいただけよう支援している。特に入浴時の会話を重要視してケアに取り組んでいる。	複数のスタッフによる介助が必要な利用者は、2名。週2回入浴が定めであり、世間話などこまめに声掛けをしながら楽しい入浴介助を心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間に関わらず、居室でいつでも休養できるように、声かけや誘導を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事情報を管理し、服薬状況、副作用について理解し職員間で情報を共有できるように対応する。医師、看護師、薬剤師との連携もスムーズにとれる体制である。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きなこと、興味があること、得意なことを把握し参加の声かけを行い、楽しみのある一日を過ごして頂けるように努めている。		



自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物等の外出の機会を重視して実施している。また、地域の行事へも積極的に参加できるように努めている。	コロナの関係もあるが、暖かくなってきたことから職員は、二手三手に分かれて散歩を始めている。買物にはまだ行っていない。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金管理は原則ご家族様管理であるが、外出先での飲食や買い物等が自由に行えるよう、立て替え支払い請求制度を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様やご家族様からの希望があれば電話のとりつぎや手紙の投函への支援を行っている。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適に過ごせるように、掃除や整理整頓を行い、温度や湿度等の管理も併せて行っている。施設内でも季節感を感じることができるよう掲示物などの工夫を実施している。	快適な環境とするため入居者手作りの梅の木 の貼り絵(色紙)などを展示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になりたい時は、居室や廊下に設置したソファ等、選択して一人の時間や空間を過ごして頂けるように支援行っている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室が落ち着けるように、使い慣れた物や大切にしている私物を持ち込んで頂けるように対応している。	事業所が居室の設備備品としているのは、エアコン、カーテン、加湿器、ベットなどであり、タンス、テレビ、仏壇などを利用者が持ち込み、日常生活を豊かにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや洗面、自身の居室は、誰もが分かりやすい表記に工夫している。		

基本情報

事業所番号	2890900554
法人名	株式会社ハートコーポレーション
事業所名	グループホーム西宮
所在地	西宮市薬師町5-50 電話0798-69-1002


【情報提供票より】平成 2年 12月 1日事業所記入

(1)組織概要

開設年月日	平成 15年 2月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤 5人 非常勤 15人 常勤換算12.6人	

(2)建物概要

建物構造	木造造り2階建て
	1・2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000円	その他の経費(月額)	管理費 33,498 円
敷 金	150,000円		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無し	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	257 円	昼食 410 円
	夕食	513 円	おやつ 円
又は1日1,180 円			

(4)利用者の概要( 8月25日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	3 名	要介護2	6 名		
要介護3	6 名	要介護4	1 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.2 歳	最低	74 歳	最高	94 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	すこやかクリニック・松本歯科
---------	----------------

(様式2(1))

事業所名 グループホーム西宮

作成日 令和3年5月19日

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	散歩や買い物などを通じて近隣との交流も重ねてきていたが、コロナによりストップしている。	感染予防対策として、店舗での買い物などは控えつつ、地域交流、身体能力の維持向上、気分転換を目標として散歩の回数を増やして行く。	予防接種の目途もたち、接種後計画的に個々の体力に合わせて実行する。	2か月
2					
3					
4					
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。